

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第93号

ななえ古写真物語

VOL. 93

空中観覧車

失われた観覧車の行方

昭和33年ころ

大沼国定公園

当館では、七飯町の歴史を語る上で、蒐集しなくてはならないと考えている写真が幾つもある。特に大沼公園に関するものでは、ウォーターシュート、観覧車、大沼電鉄とその駅舎、大沼スカイタワー、大沼遊園地、スバルパークなどである。

これらの施設は、もうすでに失われているので、往時の様子を写している写真は貴重な記録資料となる。そのため、ことあるごとに、探してはいたものの、中々見つけれないでいたのである。

ところが、つい最近、当館をよく訪れてくださる方から「大沼の観覧車の写真見つけたけど、あんまり重要じゃないものかい？」と連絡をいただいた。いやいや、貴重ですよ。と、興奮で血の温度が上がるのを覚えつつも、何事もなかったかのような冷静さを演じ、後日、お願いして寄贈してもらったのが右の写真である。

大沼公園に観覧車が存在していたことを知る人は少ないかもしれない。昭和25年に、北海道庁の「大沼公園整備五ヶ年計画」の一環として、ウォーターライダーとともに、北海道初の遊具として建設された観覧車は、高さ12m。屋根のない2人乗りベンチ8台が取り付けられたもので、現在の東大島に設置された。

昭和26年に、吉田初三郎と七飯村との契約により発行した「七飯村鳥瞰図」にも、ウォーターシュートと並んで描かれている。当時にしてみれば珍しい施設だったためか、鳥瞰図ではベンチではなく屋根付きの箱型、しかも、それが11個も取り付けられた姿に誇張され描かれているのだからおもしろい。



ところで、現在この観覧車を大沼公園で見ることが出来ません。しかし、その行方は「観覧車通信」東京支部長で観覧車研究家である福井優子氏によって明らかにされた。調査によると、客足が遠のいた大沼の観覧車は、昭和40年に、函館公園内にある「こどものくに」に移設されたようだ。しかも、現存する日本最古の観覧車として今も稼働しているというのだ。この一方をメディアで知った時、失われたものが繋がれた。そんな思いになった。改めて福井氏の熱意に感謝しています。

さて、冒頭にも紹介した未だ見つからない写真たち。その搜索は、まだまだ続いています。この紙面の読者の中に、所在を知る方がいましたら、当館まで連絡下されば幸いです。

10月の予定

1日

晴天の中、当館初となる「駒ヶ岳の植物観察会」を開催しました。6合目から馬の背までの登山道を歩きながら、イワブクロやイワギキョウなど、七飯町内でも、特に駒ヶ岳に多く生息する高山性植物を観察しました。講師は、函館植物研究会の宗像英明氏にお願いし、噴火後に、どのような段階を経て緑が回復してきたかや、駒ヶ岳における植生の特徴など、興味深いお話をお聞きしました。山頂からの眺望も綺麗でしたよ。



5日

夜の博物館第3夜は、「骨のはなし」です。八雲町郷土資料館学芸員の大谷茂之氏を講師にお招きし、動物の骨の大まかな見分け方から、遺跡から出土する骨や貝殻から、どの様に古環境を復元するのかなどわかりやすく説明していただきました。

また、当館所蔵の頭骨標本や、大谷氏の所有物である人体骨格見本を用いて、人間とその他の動物では、骨の構造がどのように違うのかなど、学びました。暑い夜でしたが、ひんやりと感じたのは、やはり骨のお陰でしょうか？



15日

雨がちらつく中、ジュニア探検クラブでは、七飯駅からJRを利用して大沼まで移動し、自然保護監視員の金澤晋一氏に指導いただき、水中の生き物について調べてきました。まずは、みんなでズボンのすそをまくり、小沼の中へ入ります。網を使って泥を探ると、エビや魚などがたくさん捕れました。「いろいろな生き物がいるということが、自然にとっても大切なんですよ」という金澤氏の言葉。子どもたちも、生物の多様性について、肌身で感じたのではないのでしょうか。ちなみに、お昼はジンギスカンを食べてきましたよ。



- 1 木
- 2 金
- 3 土
- 4 日
- 5 月
- 6 火
- 7 水
- 8 木
- 9 金
- 10 土
- 11 日
- 12 月 体育の日
- 13 火
- 14 水
- 15 木
- 16 金
- 17 土
- 18 日 収蔵展CLOSE
- 19 月
- 20 火
- 21 水
- 22 木
- 23 金
- 24 土 ジュニア探検クラブ・町民文化祭
- 25 日 第56回七飯町民文化祭・第2会場
- 26 月
- 27 火
- 28 水
- 29 木
- 30 金
- 31 土

10月の休館日はありません。

訂正します

ピチャリ92号で、紹介した紅葉橋の古写真ですが、私が記載した時期よりも古い段階のもので、設置場所も現在とは異なることがわかりました。お詫び申し上げますとともに、回を改めて修正したいと思います。

編集後記 ~tawagoto~

当館の周りでは、ヤマボウシの実が赤く色づいてきた。ホオズキもオレンジ色へ、赤く染まったトンボも増えてきた。一方で、まだ蝉の声が細く響き渡っている。いま時期は、まるで夏と秋のせめぎ合いのようだ。日を追うごとに、秋の色が優勢となり、季節が完全に移ろうのだろう・・・と、情緒的にあたりを見渡しながらも、未だ旺盛に伸びてくる畑の草には気付かないふりをしている。しかし、そろそろ草刈り機の出番のようだ。(やまだひさし)

~ピチャリ~
Pichari

第93号

平成27年9月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp